

令和2年度特別支援学校教員資格認定試験問題（第1次）

自立活動に関する科目（I）

（問1～問30 全30問）

時間 10：00～11：30

注 意 事 項

1. 試験監督者から「解答始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は、表紙を除いて16ページあります。
3. 解答用紙（マークシート）の指定された欄に氏名、受験番号を記入し、科目名と受験番号の該当する○を丁寧に塗りつぶしてください。
4. 解答は、解答用紙の解答欄の該当する○を丁寧に塗りつぶしてください。
5. この試験の解答時間は、「解答始め。」の合図があつてから、90分です。
6. 当該試験開始から終了までは、退室できません。ただし、発病等やむを得ない場合には挙手をし、試験監督者の指示に従ってください。
7. 問題冊子の余白は、下書きに使用しても差し支えありません。
8. 試験監督者から「解答やめ。」の合図があつたら、直ちに解答をやめて鉛筆を置き、問題冊子を閉じてください。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問 1 「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（平成 15 年 3 月，特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議）に含まれないものを，次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 盲学校・聾^{ろう}学校・養護学校はもとより小学校・中学校に特別支援教育コーディネーター（仮称）を置く。

イ 通級による指導は，個別指導が中心となることから，原則として，固定式の特級学級における指導とは別に行うことが適当である。

ウ 障害のある幼児児童生徒一人一人について個別の教育支援計画を作成する。

エ 地域における障害のある子供の教育のセンター的な役割を果たす学校としての盲学校・聾^{ろう}学校・養護学校を特別支援学校（仮称）に転換する。

問 2 次の表の①～③に当てはまる適切な語句を、それぞれ語群A～Cの中から選んだ組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

表 特別支援学校高等部（本科）卒業後の状況―国・公・私立計―（平成30年3月卒業者）

単位：人

区 分		卒業者	①	②	③	教育訓練 機関等	その他
特別 支援 学校 高等 部 (本 科)	視覚障害	290	125	90	47	10	18
	聴覚障害	492	68	193	192	20	19
	知的障害	18,668	11,267	76	6,338	241	746
	肢体不自由	1,841	1,575	43	111	47	65
	病弱・身体虚弱	366	206	25	72	24	39

(出典) 特別支援教育資料（平成30年度）（令和元年1月 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）

※進学者は、大学（学部）、短期大学（本科）、大学・短期大学の通信教育部及び放送大学（全科履修生）、大学・短期大学（別科）、高等学校（専攻科）及び特別支援学校高等部（専攻科）へ進学した者の計。

※教育訓練機関等は、専修学校（専門課程）進学者、専修学校（一般課程）等入学者及び公共職業能力開発施設等入学者の計。

※社会福祉施設等入所・通所者は、児童福祉施設、障害者支援施設等及び医療機関の計。

※その他は、家事手伝いをしている者、外国の学校に入学した者、進路が未定であることが明らかでない者及び不詳・死亡の者等の計。

〔語 群〕

A 就職者 B 進学者 C 社会福祉施設等入所・通所者

〔解答群〕

ア ①－A ②－B ③－C
 イ ①－A ②－C ③－B
 ウ ①－C ②－A ③－B
 エ ①－C ②－B ③－A

問 3 次の文章は、『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』（平成 30 年 3 月，文部科学省）において，知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科について述べたものである。文中の ① ～ ③ に当てはまる正しい語句の組合せを，下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

小学部の各教科は，生活，国語，算数，音楽，図画工作及び体育の 6 教科で構成されており，それらを第 1 学年から第 6 学年を通して履修することになっている。なお，今回の改訂において ① は，児童や ② の実態を考慮の上，小学部 ③ 学年以上に，必要に応じて設けることができることを新たに示した。

〔解答群〕

- | | | | |
|---|---------|------|-----|
| ア | ① 外国語活動 | ② 学校 | ③ 3 |
| イ | ① 外国語活動 | ② 地域 | ③ 5 |
| ウ | ① 外国語 | ② 学校 | ③ 5 |
| エ | ① 外国語 | ② 地域 | ③ 3 |

問 4 「特別支援学校幼稚部教育要領」（平成 29 年 4 月 28 日，文部科学省告示第 72 号）「第 1 章総則 第 6 特に留意する事項」の中で，適切な指導を行うために早期からの教育相談との関連が求められている特別支援学校を，次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 視覚障害者である幼児に対する教育を行う特別支援学校
- イ 知的障害者である幼児に対する教育を行う特別支援学校
- ウ 肢体不自由者である幼児に対する教育を行う特別支援学校
- エ 病弱者である幼児に対する教育を行う特別支援学校

問 5 「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」（平成 29 年 4 月 28 日，文部科学省告示第 73 号）「第 1 章総則第 8 節重複障害者等に関する教育課程の取扱い」に示される規定として誤っているものを，次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 各教科及び外国語活動の目標及び内容に関する事項の一部を取り扱わないことができる。
- イ 各教科の各学年の目標及び内容の一部又は全部を，当該各学年より前の各学年の目標及び内容の一部又は全部によって，替えることができる。
- ウ 中学部の外国語科については，小学部の外国語活動の目標及び内容の一部又は全部を取り入れることができる。
- エ 幼稚部教育要領に示す各領域のねらい及び内容の一部を取り入れることができる。

問 6 次の各文は、『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』（平成 30 年 3 月，文部科学省）において，自立活動への改訂の経緯について述べたものである。文章中の ① ～ ④ に当てはまる正しい語句の組合せを，下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ・平成 10 年 7 月にまとめられた教育課程審議会の答申では，「 ① については，一人一人の幼児児童生徒の実態に対応した ② であり，自立を目指した活動であることを一層明確にするため，名称を「自立活動」と改めるとともに，目標・内容についても見直し，幼児児童生徒の障害の状態の多様化に対応し，適切かつ効果的な指導が行われるようにする。」と提言された。
- ・内容については，幼児児童生徒の障害の重度・重複化，多様化に対応し，適切かつ効果的な指導を進めるため，具体的な指導内容を設定する際の観点がより明確になるよう，区分（従前の「柱」）の名称について，「身体の健康」が「健康の保持」に，「心理的適応」が「心理的な安定」に，「 ③ 」が「環境の把握」に，「 ④ 」が「身体の動き」に，「意思の伝達」が「コミュニケーション」にそれぞれ改められた。

〔解答群〕

- | | | | | |
|---|---------|----------|-----------|-----------|
| ア | ① 機能訓練 | ② 個別的な活動 | ③ 感覚機能の向上 | ④ 運動機能の向上 |
| イ | ① 養護・訓練 | ② 個別的な活動 | ③ 環境の認知 | ④ 運動機能の向上 |
| ウ | ① 機能訓練 | ② 主体的な活動 | ③ 感覚機能の向上 | ④ 運動・動作 |
| エ | ① 養護・訓練 | ② 主体的な活動 | ③ 環境の認知 | ④ 運動・動作 |

問 7 次のA群には障害児教育・福祉に関する施設が、B群にはその施設の創設に関わった人物が示されている。A群のどれにも当てはまらないものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

[A 群]

- 1 島田療育園
- 2 近江学園
- 3 日本ライトハウス

[B 群]

- ア 菅 修
- イ 小林提樹
- ウ 田村一二
- エ 岩橋武夫

問 8 次のA群の人物の中で、点字の考案、開発に関わった人物の組合せとして正しいものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

[A 群]

- 1 バルビエ (Barbier, N. M. C.)
- 2 チョムスキー (Chomsky, N. A.)
- 3 ブライユ (Braille, L.)
- 4 ブルーナー (Bruner, J. S.)

[B 群]

- ア 1, 3
- イ 1, 4
- ウ 2, 3
- エ 2, 4

問 9 次のA群には、障害者に関する国際的な出来事が示されている。出来事が古い順に正しく配列されているものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 特別なニーズ教育に関する世界会議で「特別なニーズ教育に関するサラマンカ声明と行動枠組み」が採択された。
- 2 アメリカで「障害をもつアメリカ人（ADA）法」が公布された。
- 3 国連総会で「障害者の権利に関する条約」が採択された。
- 4 万人のための教育世界会議で「ダカール行動枠組み」が採択された。

〔B 群〕

- ア 1 → 2 → 3 → 4
イ 2 → 1 → 3 → 4
ウ 2 → 1 → 4 → 3
エ 4 → 2 → 1 → 3

問10 次の文は、行動療法の技法について説明したものである。その技法を表す最も適切な語句を、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ウォルピ（Wolpe, J.）によって開発された逆制止理論に基づくもので、不安や恐怖に拮抗する反応を利用することによって、不適切な不安や恐怖の誘発を段階的に弱める方法である。

〔解答群〕

- ア 強制反復法
イ 系統的脱感作法
ウ 見本合わせ法
エ 時間遅延法

問11 A群の指導法に関連した人物がB群に示されている。指導法と人物の正しい組合せを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 ムーブメント教育
- 2 行動療法
- 3 マカトン法

〔B 群〕

- a ウォーカー (Walker, M.)
- b フロスティッグ (Frostig, M.)
- c アイゼンク (Eysenck, H. J.)

〔解答群〕

- ア 1 a, 2 b, 3 c
イ 1 a, 2 c, 3 b
ウ 1 b, 2 a, 3 c
エ 1 b, 2 c, 3 a

問12 次のA群の1～4は、幼児期の生活技術の発達について述べたものである。通常の発達における出現の順序に従って配列されているものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 口ゆすぎ（ぶくぶくうがい）をする
- 2 手ぬぐいや雑巾を絞る
- 3 自分でコップを持って水を飲む
- 4 水をすくい顔をひとりで洗う

〔B 群〕

- ア 1 → 3 → 2 → 4
イ 1 → 3 → 4 → 2
ウ 3 → 1 → 2 → 4
エ 3 → 1 → 4 → 2

問13 次の文章は、ルイス（Lewis, M.）による感情発達モデルについて述べたものである。文章中の ① ～ ④ に当てはまる適切な語句の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

子供は誕生した時に既に、「苦痛」「充足」「①」という感情が備わっており、これらの感情からより複雑な感情へと分岐し、おおよそ6か月を過ぎた頃には基本的な感情（一次的感情）が育つとされる。1歳代になると、「てれ」「②」「嫉妬」といった③とよばれる感情が芽生え、2歳代になると④とよばれる「恥」などのより複雑な感情を経験するようになる。

〔語 群〕

- 1 驚き
- 2 興味
- 3 共感
- 4 誇り
- 5 自己評価的感情
- 6 自己意識的感情

〔解答群〕

	①	②	③	④
ア	1	3	6	5
イ	1	4	5	6
ウ	2	3	6	5
エ	2	4	5	6

問14 次の心理的効果と関係する語句の組合せとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 新近性効果 …………… 記憶
- イ 傍観者効果 …………… 選択的注意
- ウ ピグマリオン効果 …… 期待
- エ ハロー効果 …………… 思い込み

問15 次のA群の各文のうち、ダウン症候群の説明として、正しいものを○、正しくないものを×としたとき、適切な組合せを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

[A 群]

- 1 21トリソミー，転座型，モザイク型の三つのタイプがある。
- 2 青年期において，退行現象が報告されている。
- 3 診断の時期は遅く，小学校入学以降である。
- 4 約90%の者に先天性心疾患の合併が見られる。

[B 群]

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ア | 1—○ | 2—× | 3—○ | 4—× |
| イ | 1—× | 2—○ | 3—× | 4—○ |
| ウ | 1—○ | 2—○ | 3—× | 4—× |
| エ | 1—× | 2—× | 3—○ | 4—○ |

問16 次の心理検査とその検査に関係が深い人物の組合せとして適切なものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 DN-CAS 認知評価システム …………… カウフマン夫妻
(Kaufman, A. S. & Kaufman, N. L.)
- 2 心理・教育アセスメントバッテリー
日本版 KABC-II …………… ダス (Das, J. P.)
- 3 PREB 学習レディネス診断検査 …… シェビス (Cheves, R.)
- 4 WISC-IV 知能検査 …………… ウェクスラー (Wechsler, D.)

[解答群]

- ア 1, 2
- イ 1, 4
- ウ 2, 3
- エ 3, 4

問17 次のA群には検査名が示されている。検査者が直接子供に実施する検査として正しいものを○、正しくないものを×としたとき、適切な組合せを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

[A 群]

- 1 日本語版 M-CHAT
- 2 日本版 PEP-3 自閉症・発達障害児教育診断検査
- 3 KIDS 乳幼児発達スケール
- 4 新版 K 式発達検査

[B 群]

- ア 1 — × 2 — ○ 3 — ○ 4 — ×
- イ 1 — ○ 2 — × 3 — × 4 — ○
- ウ 1 — × 2 — ○ 3 — × 4 — ○
- エ 1 — ○ 2 — × 3 — ○ 4 — ×

問18 重複障害のある子供の実態把握について述べたものとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 標準化された発達検査などを用いると、発達のキーポイントとなる行動を概括的に把握することができる。
- イ 他覚的感覚機能の評価として、ランドルト環視標を用いた視力検査やTAC (Teller Acuity Cards) 等も用いられる。
- ウ 医学的な診断や所見、生育歴、これまでの治療や療育経過については、できるだけ正確な情報を得ることが必要である。
- エ 標準化された発達検査の順序や項目は、重複障害のある子供の発達に即応していないことがあることを念頭に置く必要がある。

問19 学習状況を把握するテストについて述べたものとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 集団準拠テストとは、絶対評価のことである。
- イ 客観式テストでは、多肢選択式や真偽法形式が多く使われる。
- ウ 再テスト法によって、信頼性を調べることができる。
- エ テストリテラシーは、テストを扱う技術とテストに関する知識・理解からなる。

問20 次の文章は、錐体路系について述べたものである。文章中の ① ~ ③ に当てはまる正しい語句の組合せを、下の解答群ア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

錐体路は、骨格筋の随意運動を支配する神経伝達経路である。上位運動ニューロンは大脳皮質(運動野)から始まり、内包(後脚) → ① → ② → ③ → 脊髓(前角)に至る。

[解答群]

- | | | | |
|---|---------|---------|---------|
| ア | ① 中脳大脳脚 | ② 橋 | ③ 延髄錐体 |
| イ | ① 中脳大脳脚 | ② 延髄錐体 | ③ 橋 |
| ウ | ① 橋 | ② 中脳大脳脚 | ③ 延髄錐体 |
| エ | ① 橋 | ② 延髄錐体 | ③ 中脳大脳脚 |

問21 人体の生理的な機能に関して述べたものとして正しいものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 人体の血液の循環系には、体循環と肺循環があり、それぞれ動脈と静脈から構成されている。酸素が多い血液を含む場合に動脈という。
- イ 腎臓で作られた尿は、腎盂から尿道、膀胱、尿管を経て、体の外に排泄される。
- ウ ホルモンを分泌する内分泌器官を刺激するホルモンは、下垂体から分泌されるが、視床下部が調整をしている。
- エ 人体の筋肉には横紋筋と平滑筋がある。この中で、意識して動かすことができる筋肉を横紋筋という。

問22 呼吸機能障害をきたす疾病に関して述べたものとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 気管支ぜんそくは、気道の狭窄による呼吸機能障害であるが、心臓や血管系の疾病でも気管支ぜんそくに似た喘鳴症状が出ることもある。
- イ 喉頭軟化症により呼吸機能障害が強くなっても、気管切開は必要ない。
- ウ 脊髄損傷によって呼吸機能障害を起こすことがあるが、特に上部頸髄の損傷では人工呼吸器と全面的な介助を必要とする状態になることがある。
- エ デュシェンヌ型筋ジストロフィーは、運動障害以外に呼吸機能障害を起こす。

問23 小児期に見られる疾病とその症状の組合せとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア ギラン・バレー症候群 …… 意識の消失
- イ 結節性硬化症 …… てんかん発作
- ウ ダウン症候群 …… 知的障害
- エ 重症筋無力症 …… 眼瞼下垂

問24 次のA群は、てんかん発作の症状について述べたものである。B群には、発作の種類を示している。A群のどれにも当てはまらないものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

[A 群]

- 1 突然、意識を消失し、体を硬直させる。眼球上転、呼吸が停止して、尿失禁をとまなうこともある。その後、上下肢をガクガクさせる。発作後もしばらく意識が鮮明ではない。
- 2 運動野から起始する発作では四肢や顔面などの運動発作が、視覚野の発作では異常な物体が見えたり、突然見えなくなったりする視覚発作がみられる。
- 3 急に同じ場所をぐるぐる回り始めたり、上肢を振り回す、うなり声を上げたりするなど、その場にそぐわない行動をしたりする。外見上は意識があるかのような行動を取るが、本人は意識減損の状態である。

[B 群]

- ア 複雑部分発作
- イ 欠神発作
- ウ 強直間代発作
- エ 単純部分発作

問25 次の文は、「学校保健安全法」(昭和33年法律第56号)第5条の規定である。文中の ～ に当てはまる正しい語句の組合せを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

学校においては、児童生徒等及び職員の心身の健康の保持増進を図るため、児童生徒等及び職員の , , 児童生徒等に対する指導その他保健に関する事項について を策定し、これを実施しなければならない。

[解答群]

- | | | | |
|---|--------|----------|--------|
| ア | ① 健康相談 | ② 安全点検 | ③ 計画 |
| イ | ① 健康相談 | ② 環境衛生検査 | ③ 対応方針 |
| ウ | ① 健康診断 | ② 安全点検 | ③ 対応方針 |
| エ | ① 健康診断 | ② 環境衛生検査 | ③ 計画 |

問26 学校における医療的ケアのうち、一定の研修を受けた教員が行える行為に含まれないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 気管カニューレ内部の^{かくたん}喀痰吸引
- イ 酸素療法
- ウ 胃ろう又は腸ろうによる経管栄養
- エ 経鼻経管栄養

問27 次のA群に示した障害者福祉に関する法律や制度について、施行された順に正しく配列されているものを、B群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔A 群〕

- 1 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
- 2 身体障害者福祉法
- 3 障害者自立支援法
- 4 支援費制度

〔B 群〕

- ア 2 → 4 → 1 → 3
- イ 2 → 4 → 3 → 1
- ウ 4 → 2 → 1 → 3
- エ 4 → 2 → 3 → 1

問28 ノーマライゼーションの原理を発展させた人物として当てはまらないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア デジョング (DeJong, G.)
- イ ヴォルフエンズベルガー (Wolfensberger, W.)
- ウ ニイリエ (Nirje, B.)
- エ バンク-ミケルセン (Bank-Mikkelsen, N. E.)

問29 次の文章は、精神科リハビリテーションにおける社会生活技能訓練について述べたものである。文章中の ① ～ ④ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

社会生活技能訓練は、① に比べて ② で適応が広がり、対象としては ③ の患者で最も効果的である。教示、モデリング、④、強化などの技法を用いて、技能の獲得と応用を図り、社会機能の改善を目指している。具体的には、特定の状況における行動（例：断りたい誘いに対してうまく対応する）の練習を積み重ねることで望ましい社会的行動のレパトリーを増やし、全体的な社会的適応を高めていくことを目指している。

〔解答群〕

- | | | | | |
|---|-----------|-----------|------|--------------|
| ア | ① 安定期 | ② 急性期・回復期 | ③ 軽度 | ④ シンク・ペア・シェア |
| イ | ① 安定期 | ② 急性期・回復期 | ③ 重度 | ④ ロールプレイ |
| ウ | ① 急性期・回復期 | ② 安定期 | ③ 軽度 | ④ シンク・ペア・シェア |
| エ | ① 急性期・回復期 | ② 安定期 | ③ 重度 | ④ ロールプレイ |

問30 「障害者の雇用の促進等に関する法律」（昭和 35 年法律第 123 号）に定められる職業リハビリテーションのうち、公共職業安定所（ハローワーク）が実施するものとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 障害者の能力に適合する求人の開拓
- イ 障害者に対するその能力に適合する職業の紹介
- ウ 障害者に対する職業評価
- エ 障害者に適応した職業指導